

《春泥》

4 春泥やつくづく重き人の足 さや  
足をとられるとつくづく実感いたします。(みさこ)

5 ス 人通るたびに灯の点く春の泥 英花  
泥に映る灯りを詠んだんですね。(雀)

3 ゆふべ来た二匹三匹春の泥 昭子  
ゆうべ来たと断定していて、猫と想像できる省略がいい。(きさ)

5 身につける物みな軽ろし春の泥 薑子  
泥も乾いて軽いのか、足元だけは取られているのか。後者と思った。(ぱんだ)

《踏》

2 ス 青き踏むゆるりと大河曲りたる 日余子  
早春の息吹き、景が広がってきます。(せきれい)

3 春雀ひかりの裾を踏みながら 葵  
春の訪れを喜ぶ雀が見え、明るさのあつてよかった。(みやこ)

1 ス 兄ひとり少し離れて青き踏む みさこ  
難しい年頃か。分かるような気がします。(雀)

8 オルガンを踏めばふえゆく春の雲 イネ  
明るい窓辺が見えてきました。(りりい)

4 早春のロボットになき土不踏 節子  
確かに：ロボットという発想に脱帽です。(山音)

《自由》

5 春愁の耳鳴りに耳澄ましある 木聖  
耳鳴りを探ることがよくあります。春愁がとても合っていますね。(千津子)